

<紹介>良書探訪 : 気候学・地学宝の山

浅井, 辰郎

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY / 法政地理

(巻 / Volume)

7

(開始ページ / Start Page)

67

(終了ページ / End Page)

69

(発行年 / Year)

1966-03-21

茂井辰郎

はじめに

「法政地理」が会長の清新な意図と適切な編集陣とによつて、この号から質・量ともに画期的な発展を示して来たことは、会員一同として全く御同慶に堪えない。しかし吾々はここで安心するどころか、山積する学会の問題を右に左に切り開いて行かねばならない状態にあることをもよくご理解いただきたいと思う。

大学では毎年100名の昼間部卒業生が出始め、博士課程、修士課程や日本唯一の通信教育部地理学科が、それぞれ10年前後の歴史を閲して、文字通り本邦最大の地理学教室が巨歩を印し出した現在、会員各位の盛り上げる力によつてまず組織的な不備を教導、改革し、同窓会としても学会としても正常な発展を遂げるよう願つてやまない。私の夢は「法政地理」への投稿者はそのまま日本学術会議の有権者資格を得られる、という位に学会誌の内容を高めることで、原稿の方は各課程卒業論文の優秀作を集めるだけでも年1冊には収まり切れないのだから卒業生の投稿を入れれば年2回でも心配はない。もちろんこう発展した場合には同窓会誌には別の出版物が並行して出ることになる。

新企画に燃える編集主任は今回私に良書探訪を指名した。私も喜んでお引受した。以下気候や自然地理が主になるが、読者の御参考になれば望外の幸である。

I 先生の個人蔵書におすすめるもの

1. 福井英一郎編 (1962) 気候学 現代地理学体系I 454頁 古今 ￥1,500
2. 全 (1938) 気候学 566頁 古今(絶版)
3. 全 (1961) 気候学概論 256頁 朝倉 ￥650
4. 吉野正敏 (1961) 小気候 274頁 地人 ￥680
5. 小沢・吉野 (1965) 小気候調査法 218頁 古今 ￥550
6. 正野重方 (1958) 気象学総論 気象学講座I 356頁 地人 ￥650

これらの特徴を簡潔に紹介すると、1は気候学の全体系に亘つて最近までの成果を9人の研究者が執筆している。このため一貫した思想がないという憾みはある。この点2は古典的だが一貫して居り、もし古本屋で見つけたら何をおいても買うべきである。もし費用の点で問題があるなら圧縮され、具体例に欠けるけれども1と2を兼ね見えた3をおすすめる。3の後半は日本語

では唯一の世界気候誌であり、ここにも独自性がある。なお1に似て更に要約されたものが近く朝倉から地理学講座第4巻として出版される。大気候(福井), 気候変化(保柳), 小気候(吉野), 人類と気候(浅井)の構成である。4は地理学に最も関係の深い局地気候を世界の多くの文献から系統化したもので、それらの研究法は4自身にもあるが、もつとまとまつたのは5である。6は気候学の基礎になる気象学の教科書で、図抜けているのはその理解し易さである。なおこれを更に簡単にした全著者の「概論気象学」(170頁 地人 ¥380)があることを付記する。

II 図書館・職員室に備えるべきもの

もちろん個人で買えれば申分ないが少々高価である。

7. 和達清夫監修(1958) 日本の気候 492頁 東京 ¥2,800
8. 畠山久尙監修(1964) アジアの気候 579頁 古今 ¥3,500
9. 気候学ハンドブック(1959) 1374頁 ¥2,300(改訂中)
10. 坪井八十二編(1961) 農業気象ハンドブック 600頁 養賢堂 ¥880
11. 藤本治義・鈴木敬信(1957) 地学教育辞典 620頁 朝倉 ¥2,500
12. 科学の事典(1966) 岩波(再版準備中)

7は地方別気候誌が特色で、人間生活や産業、災害との関係も詳しい。8は気候誌・気候表のほかにも動気候学的研究や人文現象との関連も豊かである。9は気象・気候学の百科辞典で大変便利であるが、今品切れで改訂版が近く出る。私も執筆中。10は農業気象全般のほか4, 5を合わせたような部分もあり、親切な編集が特に役に立つ。9と10のどちらか1つをと云われれば10に軍配が上ろう。11は30年前の地学辞典以後始めて高校教育用に作られたもので、便利である。最近もつと専門家用の大部なものが似た値段で朝倉から出る。12は物理、化学に重点があるが、地学特に天体、地球物理学も極めてよい。それは先の6と同じくよく理解している学者が丁寧に書いているからである。

III 研究グループや部が備えるべきもの

ここにはIやIIよりもつと専門的な本と、ずつと取付き易い通俗書とか要求されよう。気象研究グループには次のものがよいだろう。私自身未だ見ていないものも多いが。

13. 渡辺次雄(1963) 気象観測法 164頁 厚生閣 ¥380
14. 篠原武次(1958) 近代気象調査法 302頁 技報堂 ¥450
15. 太田・篠原(1964) 気象観測技術 270頁 地人 ¥950
16. 宮内・田島(1962) 百万人の天気図 164頁 成山堂 ¥400

17. 淵・宮内(1965) 天気図をいかす法 236頁 海文堂 ¥650
- 15は気象専門家のため, 14は学生のために書かれている。次に山岳部などのためには,
18. 気象庁山の気象研究会(1956) 山の気象と遭難 204頁 朋文堂 ¥400
19. 全 (1962) 山の気象 158頁 厚生閣 ¥400
20. 大井正一(1956) 山の気象はどう変わるか 116頁 厚生閣 ¥150
21. 山本三郎(1965) 登山者のための気象学 222頁 山と溪谷社 ¥380
22. 篝 益夫(1965) あなたも予報ができる——信州の天気のことわざ——188頁
古今 ¥250

IV 教育・応用・気候変化・災害・疾病。

今までと分類をかえてトピカルに見よう。※印は新書版である。

23. 矢沢・前島(1964) 気候の教室 190頁 古今 ¥450
24. 応用気象学大系 200~250頁 地人 ¥600~800 既刊——1水文気象学,
2工業気象, 3農業気象, 4航空気象学, 5海上気象学, 6建築と気象, 8交通通信と気象,
11大気汚染と制御。
25. 倉嶋・久門(1963) お金もうけ気象学 252頁※ 番町 ¥260
26. 土屋 巖(1962) 気候の変動 210頁 厚生閣 ¥420
27. 佐藤・奥田・高橋裕(1964) 災害論 350頁 勁草 ¥750
28. 荒川秀俊(1963) 近世気象災害志 238頁 地人 ¥800
29. 全 (1965) 災害の歴史 278頁 至文堂 ¥490
30. 和田・安藤・根本・朝倉・久保木(1965) 異常気象——天明異変は再来するか——
—250頁※ 講談社 ¥260
31. 伊藤 彌白(1964) スモッグ 紀伊国屋 ¥250
32. 糺山政子(1964) 季節病カレンダー ——文明と死の奇妙な関係 244頁※
講談社 ¥260

V 季節・天気

33. 荒井・渡辺(1961) 天気学 358頁 技報堂 ¥500
34. 大後美保(1961) 季節の事典 308頁 東京堂 ¥680
35. 大野・平塚(1964) お天気歳時記 286頁 雪華 ¥390
36. 毛利圭太郎(1961) 気象のリズム 210頁 地人 ¥380
37. 斉藤 鏡一(1964) 旅と気象 186頁※ 新潮 ¥200

いつでも私まで御連絡を願います。

(法政大学教授)